

上映作品一覧

～ユースインターンの率直な感想とともに～



Nara
International
Film
Festival

塙の中で



グレーとオレンジの柔らかなで繊細なタッチのアニメーションを使用し、服役経験のある人々の一人一人の言葉や経験、そして独房収監に対する訴えがびしびしと伝わってきました。特にそれぞれの空想の世界のシーンはアニメーションを生かし、上手く駆使し表現されていたと感じました。

グレイゴ・ロックスワーズ



会話があまりにも自然で、知らなければドキュメンタリーと錯覚してしまうほどリアルに描かれている作品です。主人公の女の子の人生を、少し覗いたような感覚に陥り、人生の楽しさ・辛さ・悲しさを全て感じた映画でした。

天理のRadio



天理の温かさがそのまま映し出されていて、とても気持ちが温かくなりました。また、山の風景をはじめとした天理の美しさが見事に映し出されていて、天理の魅力を知るきっかけともなりました。

いないいないばー!



子育ての苦労や葛藤をして喜びの瞬間瞬間を温かく切り取った作品だと感じました。自然光を生かしジュリアの表情がきれいに映し出されていていたところが印象的で素敵だと感じました。

いきがい



タイトル「いきがい」へと繋がる彼の決断を知ったとき、胸が熱くなり、思わず自分自身と向き合いたくなりました。日々の忙しさの中で立ち止まりたいときや、人生に迷いや不安を抱えるときにきっとまた見なくなる作品だと感じました。

海辺へ行く道



主人公を軸に、たくさんの登場人物が登場して、リアルとファンタジーが折り重なって話が進んでいく物語で、1秒足りとも飽きずにスクリーンから目が離せませんでした。

縁en



繊細な表情、音、景色の描写、映画をつくる全ての要素が等身大で、「今しか」作ることができない特別感を感じました。人との縁について改めて考えるきっかけをくれる作品です。

破れたパンティストッキング



ワンカットで撮られた映像が、日常の切り取りのようでした！ほんと、彼と自分をみてるみたい。会場のみなさんの笑い声と共に一体となった映画の新しいかたちを発見できた気がします。

ヴァーリアの冒険



初めて、蜘蛛に可愛い、グンバレ！という感情が浮かびました『笑』蜘蛛の生きる自然と、人間の生きる地球、そして地球のある宇宙の対比がとても美しい作品です。

テッド・アトール



主人公が兄を亡くした辛さと向き合っていく姿にフォーカスした作品で、直接的な表現のセリフはなかったり、無音のエンドロールなど、物語と向き合う余白があるのが印象的でした。

2025 インターンメンバー

井上 楽斎
小松 頼礼
栗山 小奈
白田 帆乃嘉
末松 ななみ

Nara International Film Festival for YOUTH 2025

でいりーにゅーす

クリスタルSHIKA賞 決定!

長編

海辺へ行く道

監督：横浜聡子
審査員コメント

海辺の街全体をアーティスティックに描いた作品で、すごく美しかった点がとても大きいです。子供たちの夏休みを様々な視点で映し、それぞれが人生を全力で走っている姿を見て勇気ももらいました。
(衣川 颯希)

審査員コメント

美術部の中学生が中心となり周りで色々な出来事が起きていくストーリーとなっています。作品の各所に心に刺さる言葉が出てきました。この映画は芸術です。
(井上 楽斎)



海辺の街を舞台に、美術部員の14歳・奏介と仲間たちが夏休みに奔走する一方、秘密めいた大人のアーティストたちが入り交じる。のびやかな子どもたちと迷う大人たちの姿を、光あふれる海を背景に描く、優しさとユーモアに満ちた人生讃歌。

短編

破れたパンティストッキング

監督：Fabiian Munstrhjelm
審査員コメント

誰しも経験したことのあるような日常を少しだけ誇張してコメディに昇華し、その上でパートナーとの関係性などのテーマにも寄り添っていて、どこか暖かで観終わった後清々しい気持ちになる素晴らしい作品でした。
(吉田 和史)

審査員コメント

撮り方が本当に面白かったです！日常の切り取りが素晴らしいと思います。典型的なコメディ要素がぎゅっと詰められており、15分があっという間に感じました。
(白田 秀乃嘉)

監督：Gonçalo Almeida
審査員コメント

この作品は9分という短い上映時間の中で、強烈なインパクトと求心力を持った作品でした。セリフもなく、情報の説明も少ない中、圧巻の映像美をもって私たちに確かなメッセージを突き刺してきた作品だと感じ、審査員特別賞と致しました。(吉田 和史)



あるカップルは大切なイベントに出席するため今まさに家を出ようとしている。鍵、スマホ、招待状、大事なものは全て持ったはず。でも彼女のパンストには穴が!

ヴァーリアの冒険 審査員特別賞





52段の階段

9月19日、52段の階段にレッドカーペットを装飾する作業が行われ、ユースも一員として参加しました。

雨で接着部分が浮いてしまわないように、ゴムハンマーを用いてシールと階段の壁面の間を密着させていく作業に取り組みました。一見簡単そうに思うのですが、暑さの中で52段分となると想像以上に体力を使い、その日の夜は筋肉痛で腕が激痛になりました・・・。(笑)

それでも、近くで一緒に作業していたスタッフの皆さんが常に笑顔で気さくに声をかけてくださり、現場はとても和やかな雰囲気、苦しいどころか、むしろ楽しみながら取り組むことができました。

そしてすべての作業が終わり、完成した華やかな52段を見上げた瞬間「この段の中には、自分の手が加わっているものもあるんだ」と思うと、嬉しさと同時に誇らしさが込み上げてきました。

これまで街中でイベント装飾を目にしても、ただ写真に収めるだけで、その裏にある人の努力を想像したことはありませんでした。今回の経験を通じて、汗を流して完成させる人々の姿があることを身をもって感じ、「舞台裏の努力」を知ることができた貴重な機会となりました。
(栗山小奈)



オープニングセレモニー



21日17時半から、なら国際映画祭for YOUTHのオープニングセレモニーが開かれた。セレモニーには、SSFF&ASIA代表の別所哲也さんをはじめ、NARAtive Jr.作品主演の山村憲之介さん、天理市の並河健市長、ユースワークショップ参加者らが登壇。開幕の挨拶で、なら国際映画祭の河瀬直美理事長は「10代の世代が元気になるということは、地域を、世界を、ひいては地球で生きとし生ける者が、豊かであることにつながっていくと考えている」と述べた。また、ユース映画審査員部門に作品の提供をしていただいている、SSFF&ASIAの武笠祥子ディレクターは、挨拶の中で「なら国際映画祭は日本で大切な取り組みと考えている」と述べた。このほか、歴代アンバサダーの斎藤工さん、永瀬正敏さん、三船美佳さんからのビデオメッセージ、別所哲也さんのあいさつも行われ映画祭へのエールが送られた。終盤には、本映画祭新アンバサダーの就任発表もあり、ハイヒール・リソゴさんが新たに就任された。ハイヒール・リソゴさんは、「関西である限り、笑いというエッセンスも、ユースの方にやっぱり取り入れていただきたい」と期待を述べ、終始、笑いと拍手に包まれていた。急遽、スリクトにより出演が決まった大道芸人のジャグラーみぞんさんによるパフォーマンスで映画さんの幕が開かれた。
(小松頼礼)

Youth Cinema Project

創る

ユース映画制作ワークショップ

映画監督を講師に招き、中高生の眼差しで映画を五日間かけて作ります。

コメント 初めはわからないことが多すぎて不安でしたが、自分の夢を一回体験してみると、大変さとかやりがいを感じられ、もっとやってみたいと思いました。

観る

ユース映画審査員

10代のみで審査し、映画を新たな視点で見つめます。

コメント 普段自分だけでは気づけないような観点を知れたり、新しい発見に溢れた三日間でした。これからの人生の財産になるような、かけがえのない体験でした。

魅せる

ユースシネマインターン

映画祭を運営する立場となって活動します。
この冊子もインターンメンバーオリジナルです。

コメント なら国際映画祭で毎年行っているインターン。回数を重ねるごとに運営の面白さ、厳しさを学んでいます。今回取り組んだダイリニュースの製作は本当に大変でした「笑」また来年も駆け抜けたと思います。

NARAtive Jr.

あらすじ

人間関係をきっかけに大学を中退以来、陰に隠れて生活していた雄太のもとに、弟・健二の死の知らせが届く。突然の死によって雄太は重い足を引きずりある街へと向かう。ひょんなことから新聞配達をすることになった雄太は、配達という行為を通して、健二との時間を再確認する。ふたりの時間の交錯、雄太の葛藤。そして変わらないようであって行くこの街に生きる喜びとは・・・

上映の様子



本作は21日のオープニングセレモニーにて、メイキングと共に上映された。舞台挨拶には、主演の山村憲之介さん、川代健次郎さん、中村旺士郎さん、橋本佳奈さん、島田角栄さん、DOZAN11さん、並河市長、小松監督、製作総指揮の河瀬直美さんが登壇した。劇中に登場する新聞配達の裏話、商店街シーンを含めて、たくさんの天理市の皆さんに関わっていただいたことが明かされた。

22日には、大阪・関西万博の「Dialogue theater-いのちのあかし-」でも上映された。

